



健康手帳を贈呈しました

2013年以来「健康手帳」を卒園生に贈呈する事業は14年目となり、現在は県内6施設で実施、今年は11名に贈ることができました。

このうち1名を除き、原発事故が起きた2011年3月には福島県内に在住(当時3～4歳)していました。加えて高校卒業前に家庭に戻る家庭復帰の子ども2名にも「健康手帳」を贈ることができました。

施設に在籍していた期間、最長14年間の被曝モニタリング検査(甲状腺検査、個人線量計など)の結果や成長や通院の記録を1冊にまとめ、また最後のページには職員からのメッセージが書き込まれています。この「健康手帳」をなくさないようにA4サイズのポーチに、体温計とバンドエイドと共にに入れて贈っています。

施設から家庭に戻る「家庭復帰」の子どもにも、体温計、バンドエイドがおうちに帰ってから必要そうだと判断すると贈呈しています。

また健康手帳を卒園生に渡していない2施設

にも6名の卒園生に体温計(女子は婦人体温計と記録ノート)とバンドエイドを贈りました。婦人体温計を選んだ女子には、施設の担当職員が使い方を教えています。体温計には「甲状腺検査は年に1回受けましょう」とシールを貼っています。



婦人体温計と記録ノート

卒園生に健康手帳を渡したときのエピソードとして、「児童養護施設入所時からの体重身長記録があることに驚いていた」「施設の職員からのメッセージを全員が熱心に読んでいた」「いろいろな人に支えられながら俺はここを出るんだな」と施設の担当職員が報告してくれています。

里子版健康手帳をバージョンアップしました

昨年4月から試作版を、福島市内の里親さんで協力が得られた7組、8人の里子の記録を半年間してもらい、里親さんからコメントをもらいました。この結果をうけて里子版健康手帳(①自分ノート=健康や成長発達の記録、②自分年表=1年に1冊の成長記録)の2冊を本年1月に改訂しました。昨年末に里親会で紹介して、新たに希望した里親さんの里子5名も加わり、成長や健康の記録を開始しました。

現在は無償で使ってもらっていますが、今後は「自分年表」を毎年実費で購入してもらい、里親さんが主体的に記録できるようにしたいと考えています。

さらに改訂を重ねて、全国の里親里子に活用してもらえるよう普及版を作成中で、一般社団法人「すこやか会ふくしま」から販売していくことを計画しています。

すみれプロジェクト「子育て支援」を3組の親子で



2歳のお誕生日のお祝い

2年前から支援を開始した子どもは2歳のお誕生日を迎えて、お祝いをしました。

卒園した児童養護施設で担当したベテラン職員と、アフターケア担当の職員、そして本会から澤田がケーキを持って訪問しました。この訪問を2ヶ月前から施設と一緒に計画して、居住地域の保健師とも情報共有をしていました。

当日は、卒園生と夫と子どもと合わせて6人でお祝いをしました。卒園生は子育てを通して自分自身の世界も広げているようで、近況報告からもそれがわかりました(個人情報になるので、具体的なエピソードをご報告できないのが残念です)。

一方、4月20日16時52分ごろ、三陸沖を震源とする(M7.7)の地震が起きました。その後も三陸沖のスロースリップによる地震が時々起こっています。そこで現在、子育て支援をしている3家族に、すでに贈った非常袋の中身を見直してもらうために、子どもの避難用の食事や飲み物を届けました。

卒園生と繋がる食料支援や子育て支援を通して、卒園生を支援する「すこやか会ふくしま」

が「体調が悪い時に連絡をして」と卒園時に伝えても、毎日の生活で忘れてしまっても、つながり続けることで、不安な時に「すこやか会ふくしま」に相談してみようと思わせることを願っています。いつも見守っていることをわかってもらうためには継続が必要です。

最初に支援した親子の支援は、児童養護施設と「卒園生」そして居住地域の「市町村子ども家庭課」、「児童家庭支援センター」と本会が、連携して実施しています。しかし、卒園後に時間を経て、転居を繰り返してから子育てがはじまった親子の、居住地域の自治体との連携をどのようにしていくかという新たな課題も見えてきました。施設から遠隔であっても居住地域と繋ぎ、居住地域の保健師がアウトリーチしてくれるような自治体への働きかけができる方法を模索しています。さらに虐待の連鎖を断ち切るには、卒園生のみではなく家庭復帰した女性と子どもの支援についても視野に入りたいと考えています。



避難用の食事・飲み物を贈呈

6回目の食糧支援に感謝の言葉

2025年末に6施設の122名に届けることが出来ました。うち子育て家庭は14家族でした。物価高を考慮して一人4000円、子育て家庭は5000円、前年より、1000円アップして、食料品は施設の担当職員にそろえてもらいました。

卒園生は受取ると直ぐに児童養護施設に直接、電話やLINEで卒園生から届くようで、本会が期待している施設とのつながりを持ち続けられることは達成されています。さらに食料支援を届けるために、児童養護施設担当職員が、卒園生55名に手渡しすることもでき、半数近くが対面で受取っています。

また、卒園生32名はGoogleフォームで現在の健康状態や、困っていること、健康手帳のことについて回答を寄せてくれました。

本会に届いた感想の一部を紹介します。

- 物価高騰だからすごい助かっている
- 金銭的に厳しい時に役立っています
- 現在経済的に余裕もあまりない状況なので、食費を節約する助けになっています
- 現在、お米の値段が高くなっていて買いづらい中、お米が入っていてとても嬉しかったです。その他の食材なども一人暮らしにとってはとても助かりました
- 一人暮らしをしていて、食事が偏つてばかりで毎日似たようなものを食べていたが、今回の食糧支援で、日々自分では選べないものが入っていたりして、とても楽しく、食の幅が広がり食べることがまた楽しくなりました

- 温めるだけのご飯が入っていて仕事終わりに炊くことなく食べられるのでとても助かりました
- 非常食として役に立っています
- 毎年物資を補給してもらって、とても助かっています」「毎年支援をさせていただいてありがとうございます

本年も秋に 6 回目の食料支援を継続実施しますが、物価高を身にしみて感じる中、昨年同様の予算では内容は減ってしまうことが懸念されます。また、児童養護施設の希望もあり、暖房費な

ども高騰しているのでホカロンも食料支援に入れられるように計画しています。わずかでも予算を増やして、卒園生が日々の生活を豊かに過ごせるよう、さらに出身施設とのつながり、顔が見えなくても見守ってくれている皆様がいてくれることを感じられることを願っています。

皆様にご支援を頂けるように改めてお願い致します。

前号（ニュースレター 31号）に続き、廃炉の進捗をお知らせします

1)燃料プールからの燃料の取り出し

6 月 2 日から 2 号機の燃料プール内にある使用済み核燃料棒 587 体と未使用燃料 28 体の取り出しが、未使用燃料から開始されました。核燃料は発電に使った後も熱を発しているため、プールで冷却する必要があります。事故で損傷した原子炉建屋を補強して、周辺の瓦礫を取り除きスペース(※)が確保でき、ようやく 15 年目に取り出しが可能になりました。

しかし放射線量が高いので、燃料棒はまとめて管理して安全性を高める必要があります。2 号機では 2028 年度までに取り出しを終える予定、残る 1 号機は 2027 年度までには取り出しに着手して、31 年までに全ての取り出し作業を終える方針を東京電力は掲げています。

2)汚染水の海洋放出

汚染水の海洋放出は、敷地を圧迫する 1000 基あまりのタンクを減らし、廃炉のためのスペース(※)を開けることが目的のひとつです。6 月 1 日～20 日、本年度 2 回目（通算 20 回目）の処理水の海洋放出を開始していますが、6 月 10 日にサンプルタンクで警報が発生して自動停止と 13 日には瞬間的な停電によるポンプの流量低下が原因で停止、合計 2 回の自動停止は 2 年間の海洋放出では初めでした。

この停止により当初の予定より 1 日遅れの 20 日間で 7,927t（タンク約 8 基分）の汚染水を海水で薄めて放出しました。想定トリチウム総量は

約 1.3 兆ベクレル。これまで 19 回の放出で、合計約 14 万 9,000t（タンク約 149 基分）の汚染水が放出され、2 年前の放出開始前から約 7%減少していると報告されています。今年度は後 6 回の海洋放出が計画されています。

“汚染水”と呼ぶ理由は、貯蔵されている水の中には処理水放出の基準を満たす前の“処理途上水”も含まれているためです。

前号でもお伝えしたように、燃料デブリが原子炉内にある限り、それに触れた水が“汚染水”となるので、デブリは約 880t の取り出し完了まで海洋放出は続きます。

3)第 10 回福島第一廃炉国際フォーラム

廃炉について知るためのフォーラムは 2016 年以来、公開されており、第 1 回目から代表澤田が参加しています。今年は、8 月 30 日(1 日目 対話集会) 会場：南相馬市民文化会館ゆめはっと（福島県南相馬市）、8 月 31 日(2 日目 廃炉について海外の専門家も含めて専門的なプレゼン、

ポスターセッション) 会場：いわき芸術文化交流館アリオス（福島県いわき市）

右記の QR コードから申し込み、県外者や専門家以外も参加できます。



ご支援いただける活動へご寄附を

ICA 福子へのご寄附

主な活動対象

- ・ 児童養護施設に入所している子ども向け事業

実施事業

- ・ 施設の災害対策や原発事故による教訓のまとめ
- ・ 健康手帳 贈呈事業
- ・ 里子版健康手帳
- ・ 卒園前の準備教育
- ・ 児童養護施設の看護師研究会の支援・学会参加支援

ゆうちょ銀行

店名: 二二九店(店番号 229) 種類: 当座預金
番号: 02220-2-118684

名称: 福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

大東銀行

店名: 福島西支店(店番号 047) 種類: 普通預金
番号: 1303901

名称: 福児童 代表 澤田和美

三井住友銀行

店名: 白山支店(店番号 228) 種類: 普通預金
番号: 6854164

名称: 福児童 代表 澤田和美

一般社団法人すこやか会ふくしまへのご寄附

主な活動対象

- ・ 卒園した若者の健康を支える事業

実施事業

- ・ 甲状腺の検査を受ける卒園生への交通費補助
- ・ 健康診断(含 甲状腺検査)受診支援
- ・ 食料支援
- ・ 健康被害発生時の検査・治療
- ・ 子育て支援

ゆうちょ銀行

店名: 二二九店(店番号 229) 種類: 当座預金
番号: 02230-5-128642

名称: 一般社団法人すこやか会ふくしま

ゆうちょ銀行

店名: ハチニハチ(店番号 828) 種類: 普通預金
番号: 3869579

名称: シャ) スコヤカノカイフクシマ

大東銀行

店名: 福島西支店(店番号 047)
種類: 普通預金 番号: 3007080

名称: シャ) スコヤカノカイフクシマ

代表理事 齋藤久夫

感謝! ご寄附・未使用切手、会費納入等頂いた皆様 (順不同 敬称略)

▼NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会(2025年11月10日~2026年5月20日)

唐池学園募金箱、日本基督教団名古屋東教会、日本聖公会東北教区婦人会、戸塚ルーテル教会学校、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、日本ルーテル教団、戸塚ルーテル教会、Casa d'angela 天使の募金(永見 亜矢子)、東光学園内聖ルカ教会子ども礼拝献金、日本基督教団夙川東教会、日本基督教団下落合教会、日本基督教団 下落合教会学校、日本基督教団南山教会、新潟聖書教会、2010オリーブの木、日本基督教団大泉教会、日本基督教団 蒲田教会、へるす出版「小児看護」編集室

赤坂 康子、秋山 道子、荒木 暁子、安間 てう子、生田 和正、池口 佳子、池田 むつみ、石川 福江、石橋 あつこ、石原 昌子、磯部 和子、伊藤 良子、糸柳 尚子、犬塚 茂生、猪熊 京子、今井 真純、牛尾 幸世、宇野田 陽子、馬淵 由季子、榎本 順一、蝦名 美智子、太田 信吉、太田 智恵子、太田 愛智、大谷 俊樹、大谷 尚子、大塚 千織、大橋 正明、大畑 美和子、小川 昌之、沖 菜穂子、小熊 三重子、川瀬 愛、加藤 典子、金澤 トシ子、金子 みどり、菅野 勇一郎、國島 孝子、小此木 隆雄・真知子、小林 美亜、小松 美智子、権田 倫子、近藤 真由美、齋藤 久夫、齋藤 みき子、佐川 真理子、笹鹿 美帆子、佐野 尚子、澤井 映美、澤田 和美、澤田 稔、志賀 由美、柴田 恵子、嶋津 徹・琴音、白鳥 まゆみ、塩飽 仁、杉田 教夫、杉村 恵子、鈴木 栄一、鈴木 千衣、セキグチ フサコ、銭谷 美幸、高木 史江、高橋 明男、高橋 千治・玲子、高橋 弘、高橋 みつ子、高柳 允子、滝口 香奈子、田口恵美子、武井 陽一・めぐみ、竹内 由美子、竹中 真美子、田知本 みどり、立山 恭子、東條 めぐみ、中島 隆宏・祐子、中田 勇二、中野 陽子、長畑 左樹子、名取 智子、西垣 二一、西口 徹、西田 志穂、畑野 研太郎、原 久子、原瀬 昌久、原瀬 光子、原瀬岳・耕・里、福島 洋子、細谷 たき子、本田 裕子、前島 忻治、舩岡 泉、町田 洋子、松岡 恵、松原 悦子、三原 翠、三宅 光子、宮原 多枝子、宮本 京子、武藤 久美子、武藤 房枝、村上 満子、村川 佳代、村田 貴志子、村田 恵子、守屋 正子、山崎 慶子、山崎 真由美、山田 和子、山田 洋、山本 千春、吉村 勉、ヨシムラ ユウタ、宮本 信江、匿名4

▼一般社団法人 すこやか会ふくしま(2025年11月10日~2026年5月20日)

国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、2010オリーブの木、日本基督教団西千葉教会、日本基督教団名古屋東教会、山のハム工房ゴバル、ミホプロジェクト、前女山岳部同期会

安間 てう子、生田 和正、磯部 和子、牛尾 幸世、宇野田 陽子、蝦名 美智子、太田 綾子、沖 菜穂子、奥野 順子、小田 美乃里、加藤 和子、加藤 典子、金澤 トシ子、金子 みどり、國澤 尚子、小松 美穂子、近藤 真由美、笹鹿 美帆子、佐野 むね、澤井 映美、柴田 恵子、下澤 いづみ、白鳥 まゆみ、杉田 教夫、高橋 みつ子、高柳 允子、高山 喜美子、武井めぐみ・陽一、立山 恭子、津山 春香、東條 めぐみ、中島 隆宏・祐子、長島 令子、中野 陽子、中山 珠枝、西垣 一二、西脇 洸一、畑野 研太郎、林 寛子、坂東 菜季、細谷 たき子、本田 裕子、前島 忻治、舩岡 泉、松原 悦子、馬淵 由季子、三浦 美智子、三谷 美香、三原 翠、三宅 光子、宮本 京子、武藤 久美子、村上 満子、村川 佳代、村田 恵子、守屋 正子、安江 真佐子、山縣 敦子、山崎 慶子、山田 和子、吉村 勉、匿名2名

NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

代表理事 澤田 和美(福島事務所 事務局長)、塩飽 仁(東北大学大学院 小児看護学 教授)

連絡先・Email fukujidou@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.fukujidou.org/>

一般社団法人 すこやか会ふくしま

代表理事 齋藤 久夫(元 児童養護施設 福島愛育園 施設長)

連絡先・Email fsukoyaka@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.sukoyaka-f.org/>

共同事務所: 住所 〒960-8055 福島市野田町 6-4-74-5 メゾンオーブ C203

電話・FAX: 024-573-2939